

新報

島根教育
隠岐教育事務所
隠岐の島町湖原4
電話2-9772

知夫村 教育活動の紹介

これまで知夫村では、地域の「ひと・こと・もの」を生かし、地域と連携した教育を進めてきました。平成二十七年

度からは小中一貫校としてのあゆみを始め、その後、島留学制度の開始、教育委員会事務局の校舎内移転、学校図書館の地域への開放、校舎内

に地域交流室の設置などを行いました。これまでの知夫村の教育の良さに新たなものを加えながら教育の魅力化に取り組み、知夫村の次代を担う子供たちを育ててきました。

には『知夫村の次代を担う子どもたちの育成』と『村民が「誰でも、いつでも、どこでも、なんでも」学ぶことができてきた知夫村』を目指すための基本的な考え方がまとめられています。

さらに、令和三年度の改訂により「子供×大人のふるさと教育の推進」を中心に据えて地域や教育の魅力化・活性化を図っていくことがコンセプトとなり、以下のように整理しました。

【学校教育における重点】

○小規模小中一貫校という環境を生かした協働的な学び・個別最適な学び
○ふるさとに愛着を持ち将来の知夫を担う人材を育てるためのふるさと教育・キャリア教育

○学びの基盤となる学習環境の整備や島留学制度による学校・地域の活性化

【社会教育における重点】

○住民の学び舎としての学校・教育委員会・公民館的要素を持った一体型校舎の有効活用
○地域人材の発掘・活用
このコンセプトを受け、知夫村教育委員会では、年明けの一月下旬に三年ぶりとなる教育フォーラムの開催に向け、準備を進めています。
「子供×大人のふるさと教育の推進」を視点に、これまでの内容を拡充しています。
一つ目は「子供」を中心に置いたテーマを掲げ、『あそびやガーデン』（遊びや体験をベースとした活動）を企画しています。事務局だけでなく、方々にもご協力いただきながら、地域と連携・協働して本番に向けた準備が動き始めました。「子供たちに体験させたいこと」「子供たちに不足している体験」「知夫や季節にちなんだこと」など子供たちはもちろん、保護者や地域の方、企画関わっていただける方など全員が楽しむことのできる活動にしたいと考えています。

社会教育委員の方々の話し合いの様子



二つ目は、『まなびやガーデン』（多世代対話型の場合）を企画しています。「子供のためにやってみよう」「子供と一緒にやってみよう」となど、大人からの提案が、子供たちはもちろん大人のふるさと知夫への愛着や探究的な活動への関心につながっていくことをねらいとしています。
この多世代対話型の場合や遊びや体験をベースとした活動などの取り組みは、社会教育の目標でもある「大人の活躍の場の創出による、大人の学びの機会を増やす」ということにも関連しています。
今後も、知夫村らしさを生かした地域総がかりでの教育を展開し、将来の知夫村や広く世界を担う子供たちの豊かな人間形成とそれを培うことのできる地域づくりを目指していきます。
(派遣指導主事 山下)
(派遣社会教育主事 広兼)

信頼感を育む

先日、久しぶりに通級指導で関わっていた生徒に出会いました。第一声は「就職が決まりました。」という報告でした。私の中では、小学生の彼のことが、昨日のことのように思い出されるのですが、もうそんな年齢になったのかという驚きと共に、嬉しさでいっぱいになりました。

話した。全て知った上で採用してくれたということは、自身を理解してくれたのだと思います。」
近年発達障がいのある子の二次的な障がいの予防的取組について、様々な研究がなされています。国立特別支援総合研究所の『社会とのつながりを意識した発達障害等への専門性のある支援に関する研究（令和三年三月）』では、二次的な障がいの予防の重要な視点の一つとして、『信頼感』を挙げています。

が、もうそんな年齢になったのかという驚きと共に、嬉しさでいっぱいになりました。楽しい会話は、小学生の頃の通級指導にまで遡りました。様々なエピソードを笑いながら話す中で、今まで語られていなかった、通級指導開始前の思いを聞くことができました。通級指導を始めると聞いた時、彼は「また型にはめられるのか」と思ったそうです。その言葉を聞き、初日は、期待感とは程遠く、不安や緊張感でいっぱいであつたのだと思い、今更ながら切ない気持ちになりました。

信頼感を育む基盤となるものであるとまとめています。通級指導は、彼にとって入口にすぎません。今の彼を見ていると、彼を取り巻く様々な人との関わりの中で、信頼感を感じてきたのだと感じ、嬉しさと共に、学校教育の果たす役割は大きいと改めて胸に刻みました。

(文責 角脇)